

クラス担任のための Career Guidance

【キャリアガイダンス 特別編集】



2020 >> VOL.43



広島県福山市立福山中・高校教諭 研究企画主任
上山晋平先生
山口大学教育学部卒。庄原市立東城中学校、福山市立福山中・高校学校の中学教諭を経て、2009年から同校高校教諭となる。中高生の英語授業と校内研究を担当。ESDやSDGsの取り組みでも活躍し、昨年はユネスコで発表した。

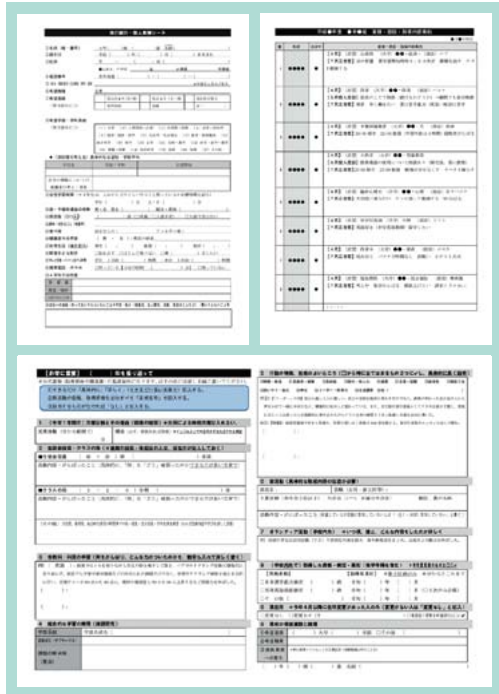


【著書】
『高校教師のための学級経営—365日のパーフェクトガイド—』(明治図書)

入学から卒業まで、学級運営の流れとポイントが具体的に把握できると好評のロングセラー(下記資料も収録)。

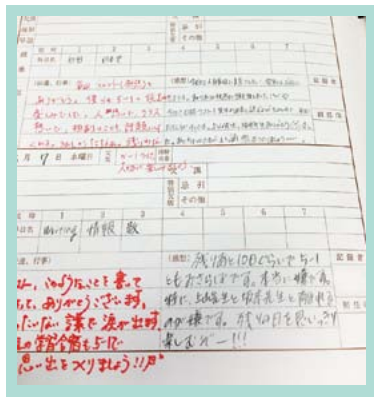
生徒理解のためのシート(資料1~3)

ダウンロード可



生徒ごとに情報を集約しておくためのシート類。
(左上部:資料1、右上部:資料2、下部:資料3)

学級日誌(資料4)



学校全体で取り組む学級日誌。日直がその日の出来事や思ったことを自由日記に書きこむ。上山先生は必ずコメントを入れて「交換日記風」にする。

スケッチブック(資料5)



スケッチブックの1頁に1メッセージや写真を入って、プレゼンテーションする。自己紹介や授業でのプレゼンテーションなどでも活用している。

クラス運営のコツ

新しいことに挑戦できる土台になる

生徒と教師、生徒と生徒、相互理解がクラスに安心感を生む

高校におけるクラス担任の役割について、『高校教師のための学級経営』の著者で広島県福山市立福山中・高校の上山晋平先生は、「生徒とは一生の付き合いになると思って、1年間真剣に向き合う」と言っている。

「私が、教師として一番喜びを感じるのは、生徒と普通に話せる関係ができていくときです。それは人と人としてしっかり向き合う関係にあるということ。そういう関係ができると、卒業後も会いに来てくれたり、同窓会に呼んでくれたり。ありがたいなと思います。そんな関係性を持つるのは、教師ならではでしょう」

だからこそ、新学期には必ず、生徒全員の名前を出席番号順の座席表にして暗記して臨むという。「本当は暗記が苦手」という上山先生は、「決して楽な作業ではない。しかし、「初日から名前を呼びかけると、生徒はとも驚きます。嬉しそうに、対生徒だけでなく、人との関係づくりは、そんなちょっとした努力が大事なのだと思います」。

名前覚えは、生徒との関係づくりの第1歩。学期が始まると、より詳しい自己紹介・面談シート(資料1)を生徒全員に記入してもらい、それぞれの興味や関心、個性を理解していく。さらに、面談や定期試験・模試の結果、進路希望情報など、生徒の記録を随時追加し(資料2)、すべての生徒情報を一冊のファイルに集約していく。年度末には、指導要録のもととなり担任に引き継ぐ年度末振り返りシート(資料3)を作成する。

「生徒を知ることが、生徒との関係づくりで一番重要なことです。一つ一つは、面談の際にさらさら書き込める程度にしておくだけでいい。負担をかけず効果を出すことも大事です」

さらに、生徒同士の関係づくりのために、教室に貼り出す座席表を作成し、生徒が各自、好きなことなどの自己紹介を、一言ずつ記入する。それによって、同じ趣味をもつ生徒同士が仲良くなったり、近くの席の生徒との会話の糸口になったり。また、できるだけ多くの生徒同士が会話できるようなように、定期試験ごとにしりぞきで席替えを行う。加えて、交換日記風の学級日誌(資料4)でクラス全員がどんなことを考えているのかわかるようにするなど、あの手の手で、クラス全体の人間性を促す。それが、クラス全体の安心感となり、新しいことへの挑戦の土台となる。

生徒を大人として扱い、「意味や意義」を伝える

上山先生は、クラス運営で大事なことに「誠意」を挙げる。

「誠意をもって、クラスをどう運営したいと考えているのか、一つ一つの行動や行事をする意味は何なのかなど、意味や意義をしっかり伝えます。単なるルールとしてではなく、どのような社会性が身につくのかなど、生徒にとってのメリットも明確にしながら。高校生をちゃんと大人として扱うこと」

学校行事はクラス運営に欠かせない重要な体験学習の機会

クラス運営でもう一つ大事なことは、文化祭や体育祭、球技大会などは、学校行事だと上山先生は言う。

「ここでも、その行事をする意味をま

多くの生徒同士が会話できるように、定期試験ごとにしりぞきで席替えを行う。加えて、交換日記風の学級日誌(資料4)でクラス全員がどんなことを考えているのかわかるようにするなど、あの手の手で、クラス全体の人間性を促す。それが、クラス全体の安心感となり、新しいことへの挑戦の土台となる。

が、中学でもクラス担任をしてきた私が、中学と高校の大きな違いだと感じました」

その思いを、上山先生は、学級開きの時間にスケッチブックを活用してプレゼンテーションする(資料5)。自分が教師として何を大切にしているか。社会に出ていく大人として何が大切で、自由と責任のバランスが大切か。そのために今、このクラスで一人ひとりがどうあるべきなのか。クラスの目標とする姿はどのようなものかなど、熱く語ることで生徒の納得感が高まる。しかもスケッチブックで簡潔に伝え、生徒は理解しやすい。

「英語の授業など日頃から、生徒にもスケッチブックプレゼンテーションをやってもらいます。保護者面談の際、生徒に自分のやってきたことや進路についてプレゼンしてもらおうと、保護者からは「うちの子は、そんなことを考えていたんだ」と好評です」

高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための進路指導・キャリア教育専門誌

Career Guidance

キャリアガイダンス

編集協力委員を募集中です

『キャリアガイダンス』はこれからも、最前線で進路指導やキャリア教育に向き合う先生方と共に誌面を作ってもらいたいと思っています。毎号の読者アンケートや、年数回の編集部からのアンケートにご協力いただき編集協力委員にご登録いただけますと、『キャリアガイダンス』を毎月お手元にお届けいたします(年5回・無料)。また、リクルート進学総研の各種調査や教育関連イベント情報などの情報が満載のメールマガジンを月に2回お届けします。ぜひ多くの先生方にご登録いただけますと幸いです。

お申し込み方法

- お名前
 - メールアドレス
 - ご自宅住所
 - 勤務先高校名
 - 校務分掌
- を明記のうえ、下記アドレスにメールください。
※高校教員以外の方はご応募いただけません。

career@r.recruit.co.jp



バックナンバーの記事はWEBサイトからご覧いただけます!

キャリアガイダンス

検索